



## 順調に2学期がスタートしました！

新学期がスタートして2日間を終えました。しんと静まり返っていた学校に子供たちの元気な声とともに、再び活気が戻ってきました。子供たちは、今年の夏休みの収穫を大きな自信と誇りとして、本日登校してきました。



43日間の休み中に、①十分な親子のふれあい、②熱中症や感染症への対応を十分行った上での各種体験活動への参加、③交通事故・水難事故への配慮などに気をつけてくださったおかげで、命に関わる事故やけがもなく、174人の児童及び全職員が元気に2学期を迎えることができました。このことは、子供たちの自覚に併せて、保護者の皆様方の御協力の賜物と職員一同感謝しております。

2学期は、高学年は、小音会、宿泊体験学習や修学旅行などがあり、保護者の方々に大変お世話になるかと思えます。よろしくお願ひします。

## 「挑戦」と「感動」

一昨日の始業式では、年間テーマの「考動」に加え、2学期のテーマとして「挑戦」と「感動」であると伝えました。(以下、講話の内容を一部抜粋)

「挑戦」とはどのようなことでしょうか。「挑戦」と聞くと大きなチャレンジのように考えがちですが、それだと一歩一歩がなかなか進みません。一方で、「小さな一歩」を踏み出してみると色んなことがわかってきます。それが自分にあったやり方がどうかもわかります。すると、次の一歩はそのままか少し変えるかもわかってきます。「大きな挑戦」のために「小さな挑戦や努力」を積み重ねるところに意味があると思っています。

「失敗を恐れず挑戦してほしい」これが私の願いですが、挑戦とは一度だけすれば終わりというものではありません。失敗しても何度も何度も諦めずに挑戦し続けることが、少しずつ自分を成長させ、やがて成功へとたどり着く道を切り開くことになるのです。勉強でもスポーツでも音楽でも何でもいいと思います。みなさんもぜひ、自分の中に新たに挑戦したいものを見つけられたら素敵ですね。いろいろな場面で挑戦を続け、一歩一歩前進していくことができる2学期にしてください。

そしてもうひとつ「感動」です。「感動は、チャレンジのある所にしか生まれない」のです。ですから、たくさん「挑戦」することでたくさんの「感動」を手に入れることができるのです。

最後に、ある本に書かれていた柔道の日本代表選手である阿部一二三選手の言葉を紹介します。彼は、「努力が好きを得意に変えてくれる。だからやり続けてみて」と言っています。パリオリンピックでも優勝し、2回続けて男子66kg級柔道の金メダルを手に入れました。それほど強い阿部選手も、小学校2年生の時に同じ相手に何度も負けたことがあったそうです。でも、悔しくて勝ちたくて、努力を続けたということが書いてありました。好きなことを努力し続けて、得意にしていけたら素敵ですね。

「失敗は成功のもと」。うまくいなくても、コツコツと努力を続けてみたらどうでしょう。「成功」の反対は「失敗」ではなく、「何も挑戦しないこと」です。だからこの2学期も、一歩でも二歩でも進むことができるように、たくさん「挑戦」し続けましょう。

好きなことをあきらめずに続けて、得意を目指せる2学期になるといいと思います。うまくいなくても、努力を続ける限り、失敗ではないのです。目標をもって「挑戦」していきましょう。そして、自分や周りの人が感動できるような頑張りを続けていきましょう。

このような話をしていると、「学ぶ門には書来る(まなぶかどには ふみきたる)」という言葉が思い出します。これは「学問に打ち込んでいる人のところには自然に書物が集まる」という意味です。このことから「志を持って物事に取り組み努力している人には、自ずとその道にかなった機会がめぐってくる」と考えられています。

行事の多い2学期です。子供たち一人一人が志をもって物事に打ち込み、自分自身を大いに伸ばしていけるよう、見守り、支援していきます！

## 「ドラえもん」に学ぶ

今日（9月3日）はドラえもんの誕生日！

昨年もこの時期に「ドラえもんの誕生日」にちなんで、「いろいろなタイプの価値観をもった子供たちが、それぞれの力を発揮して、自分のできることを行い、あきらめずに壁を乗り越えようとする大切さ」や「困難を乗り越え、一つの目標に向かって協力し合うという普遍的な価値」ということを書きました。

横山泰行氏が書いた「のび太という生き方」という本があります。「のび太」とは誰もが知るところのアニメ「ドラえもん」の主人公です。この「のび太」の性格や言動、アニメの中の役割を学問的な「ドラえもん学」として分析し、論評した本です。

この本を要約すると次のとおりです。

- ①秘密の道具はのび太の長所や優しさを引き出すツールである、それ自体が夢を叶えることはない。最終的に夢を叶えるのは、のび太の行動と努力である。
- ②のび太の「優しさ」が成功要因の一つである。のび太は集団において、常に大事なメンバーとして迎えられており、彼の優しさが「しずかちゃん」のハートを射止めた。
- ③非常識な夢、欲望丸出しの夢は叶わない。夢は自分でコツコツ努力して叶えるものだ。

私たち大人は、自分の夢や希望を子供に託したり、子供が失敗しないように先回りしてガードしたり、「いじめは排除」の覚悟で子供を守ったりします。それが義務だと確信しているからです。しかし、「のび太」の両親は、決して助けに来ません。助けるのは、「ドラえもん」か「しずかちゃん」です。「ドラえもんのひみつ道具」という知恵や夢を使って、困難に立ち向かっていきます。その中で、いつの間にか自立し、「いじめっこジャイアン」と一緒になって冒険にも出かけていくのです。

いよいよ、一年で一番学校生活が充実する2学期がスタートしました。今学期も様々な行事や学習活動が予定されています。子供たちは、それらの活動の中で、切磋琢磨し知識や知恵を学び、友達関係を豊かにして、自立への基礎を培っていきます。

ドラえもんのアイテムは、教師であり、友達であり、自分の心の中にある夢や意志なのです。子供自身で困難を乗り越えたときに、最大の称賛を送ることが、親や教師のあるべき真の支援です。

今後も、全教職員が一丸となり、教育活動を進めていきます。保護者、地域の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

## 自ら学び、達成の喜びを得る

『仏様の指』という寓話があります。いつも心に刻んでいる話です。

あるとき、仏様が道ばたに立っていらっしゃった。すると、一人の男が荷物をいっぱい積んだ車を引いて通りかかった。しかし、大変なぬかるみにはまってしまい、懸命に引いても車は動かない。汗びっしょりになって男は苦しんでいた。

その様子をしばらく見ていらっしゃった仏様は、ちょっと指でその車におふれになった。その瞬間、車はすっとぬかるみから抜けて、からからと男は引いていった。

目指す教師像（大人の姿）はこの姿です。この男性は仏の指の力添えがあったことを知りません。自分が努力して成し遂げたという自信と喜びとで、そのあとも車を引いて行ったと想像できます。もし仏様が手伝ったことを知れば、男性は「ありがとうございました。」と頭を下げてまた同じように荷車を引いて行ったと思います。感謝の気持ちを持ちながら・・・。

でも「自分の努力により勝ち得た、学び得た喜び」は得られなかったのではと思います。毎日学校では様々な学びが繰り返されており、喜びや努力とともに子供たちの心に刻まれています。子供が教材に向き合っ、努力格闘する姿を見守りながら、気付かれることのないようにそっと指を添え、「子供たち自身の力」で教材をものにさせていく。それが「授業の核」だと思っています。情景や気持ちが子供の学びを強くします。これから始まる2学期、どうか何事も周りがすぐに助けるのではなく、子供の気持ちや努力を見守り、さりげなく指で触れる程度のサポートができるように、子供たちを見守っていただければと思います。

